

沖縄県立精和病院だより

かけはし

～ 「こころの架け橋」を目指して ～

理念

こころ病む人を支え
共に歩む

これは訓練、訓練、訓練です。＝院内防災訓練＝

事務部長 平田 いずみ

11月8日（土）朝8時過ぎに出勤。今日は防災訓練日。

休日を平日に見立て、半日かけて院内防災訓練を行う計画だ。

9：00、LINEに震度6の地震発生の一報がある。

9：02、院長から職員と患者の安全確保、診療停止、被害状況報告の指示LINEが届く。

9：09、対策本部をOT室に立ち上げる、集合せよ、の一報。各リーダーが集合する。

9：19、対策本部立ち上げ、各病棟、外来、デイケア等所属ごとの被害状況が報告される。

「情報共有です！セブンイレブン側の道路が陥没、通行不可、当院の出入りはサザンヒル側の道路から迂回が必要です！」看護統括へ、各病棟からの随時の報告。

「外来患者が転倒、頭部打撲、意識不明。」「西3病棟ボイラー屋根が崩壊、通行出来ません。」「東2病棟TV室のある搭乗口崩壊、歩行不可能。」「東2病棟ケガ人の発生、搬送お願いします。」「ケガ人の氏名、負傷箇所、状態は？」情報は集中し、交差し、重なっていく。

9：30、津波警報発令、震度5弱の余震が続く。診療統括からはケガ人のトリアージ場所設置、人員配置の指示が出る。救助作業中、医師にも負傷者が発生したとの一報が入る。

体育館が安全と確認できたので避難指示が出る。随時病棟の入院患者を避難させていく。

10：30、津波到着。当院付近には影響は無い模様。ケガ人の受け入れ可能な病院が確認できたので、避難経路の確認をし、病棟看護師が付き添い移動を開始する。

11：00、津波警報解除。タイムスケジュールに合わせてシナリオが進行していくうち、ホワイトボードのクロノロ、TODOリストが埋まっていき、計画書に記載された言葉の一つ一つの意味を実感していく。何度か入院患者の避難指示が出されるうち、そろそろ体育館はキャパオーバーとの連絡が入ってきた。体育館のキャパって何名？立ったまま整列して250名、と看護部長。とてもじゃないけど全患者、職員が避難するには厳しいキャパだ。看護統括が安全な場所の報告を求め、避難場所の変更と移動を指示する。喧噪の中、時間は進み、

12：00、訓練終了。

ちょっと不謹慎かもしれないが、ああ楽しかった、というのが素直な感想である。気持ちが高揚したまま参加した反省会で、参加者全員で課題や反省点を発言していく。発言を促されることで自分の考えに気づき、皆の発言が自分の経験値になる。このメンバーなら実際に災害があったときでもなんとかなる、そんな実感を得た。

災害が起きたときにどう動くか、非日常を想定し、考える作業はとても有意義だった。私自身は医事・統括班長という役割だが、戸惑うことも多く、自分の役割が果たせたかは懐疑的であり、反省事項である。今後に生かしたい。

事務部長として精和病院に赴任して、10か月目になりました。

改めまして皆様、令和8年もよろしくお願いします。



第14回沖縄県立病院運営研究発表会における精和病院の実践報告

総務課 主幹 西平 点

当院で約10年ぶりとなる第14回沖縄県立病院経営研究発表会が令和7年7月12日土曜日に開催されました。精和病院の発表の内、4題ご紹介致します。

「沖縄県立精和病院における急性期病棟（西3階病棟）の高収益化と病床利用率改善の実践」

医局 精神科医長 青山 貴博

沖縄県立精和病院は、精神科救急を担う中核病院です。コロナ禍後の稼働病床縮小により、経営改善が課題となっています。精和病院の収益は入院収益が約70%を占め、特に急性期西3病棟がその約40%を占めています。西3病棟の入院診療単価（26,624円）は他病棟より高いため、同病棟の収益向上が重要です。

令和7年度4～5月の実績では、ベッドコントロールにより病床利用率が83.4%に向上し、入院収益は前年比2,450万円増加しました。一方で、医師数減の影響で外来収益は減少しており、目標（前年度比1億円増）達成が課題です。



「精神科単価病院の苦悩 低い診療報酬でどう生き残るか」

デイケア室 室長 仲本 直樹

精神科デイケアはコロナ禍により規模縮小や感染拡大の影響で利用者が減少しましたが、令和5年から回復し、令和6年度の利用件数は11,400人となりました。本年は12,400人の参加を目標としています。高齢化等により送迎希望者は増し、令和6年度は10,447人で参加者の92%を占めました。安定した参加と地域定着を図るため、入院・外来患者への見学や体験は58名、計559件に達し、1人あたり最大47回利用しました。その成果もあり、退院後3か月以内の再入院は前年度より減少しました。



「クロザリルについて」

薬局 主任技師 野波 陽子

クロザリルは治療抵抗性統合失調症に唯一有効性が認められる抗精神病薬ですが、無顆粒球症などの重篤な副作用のリスクがあります。このため、好中球減少症や耐糖能異常の早期発見・対処のため、CPMS（クロザリル患者モニタリングサービス）という仕組みが導入されており、eCPMSへの患者登録と定期的な血液検査が必須です。

精和病院では、検査・処方漏れを防ぐために独自のCPMS確認表を活用するなど、他職種と連携した取り組みを行っています。



「当院における検査コスト削減の取り組み」

検査科 技師長 潮平 さおり

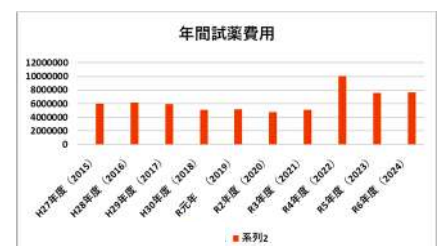
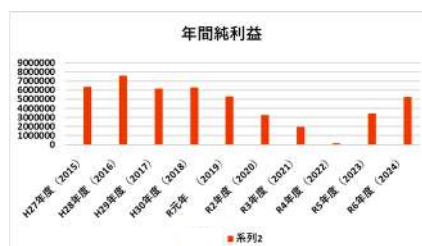
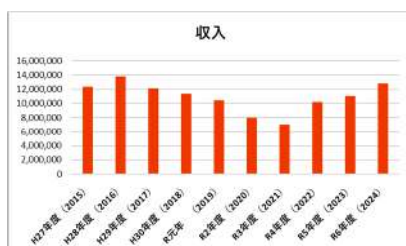
近年検査収益の減少が続いていることから、検査の見直しと支出削減が急務となりました。精和病院の特殊性を鑑みると（検査技師の定数2人）、検査領域を広げる事や検査件数を増やす事による増収は容易ではないことから、支出を抑える事による増収に焦点を絞りました。以下の四点を念頭に掲げ取り組んでまいりました。

1. 採算の取れてない検査を洗い出し外部委託する
2. 算定を考慮した検査セットの見直し
3. 検査試薬の効率化を促進
4. 検体管理加算Ⅱの取得

支出削減に取り組んだ結果、令和6年度の収入は回復したものの試薬費の値上げにより、純利益の回復が依然として遅れている状況です。

今後も純利益増加に向けて引き続き取り組んでいきたいと思ひます。

以上、簡単ではございますが当院の取り組みをご紹介させていただきました。今後も患者に寄り添う医療・サービスの向上に努めて参ります。



ディケア祭 開催!

ディケア室 室長 仲本 直樹

晩秋の折、精和病院ディケアでは今年も待ちに待った「ディケア祭」を開催し、バザーと喫茶コーナーをオープンしました!

バザーでは、2カ月前から職員に出品物を募った結果、例年以上にたくさんの品物が集まりました。そのおかげで、来場されたディケアメンバーの皆さんはもちろん、入院中の患者さまにも「選ぶ楽しさがあった」と大変喜んでいただけました。

喫茶コーナーでは、ミニどら焼き・ゼリー・ヒラヤーチーなど手作りメニューを販売。喫茶を担当したメンバーさん達は2カ月前から練習を重ね、販売する個数までしっかり計画して本番に臨みました。

メンバーさんとスタッフが力を合わせ、心を込めて準備した“手づくりのお祭り”。こだわりいっぱいの温かい一日となりました。



商品あります!



いらっしやいませ!

安全で美味しい給食提供

栄養管理室 室長 下地 恵美

当院は精神科単科病院であり、入院患者の食事摂取の特徴として、「早食い」「丸飲み」「かき込むようにして食べる」等の食行動が多くみられます。そこで、誤嚥防止及び窒息事故を回避するために令和元年10月より調理法の見直しを行い、現在においても継続している事例を一部紹介します。特に肉類は繊維を断つように格子状の切り込みを入れて軟化剤3%の漬け込み液に90分浸漬後、加熱調理を行っています。また、野菜類は献立により千切りや2cm未満の角切りにし、葉野菜の和え物はスライサー2回通しを実施しています。調理方法を見直したことにより、給食由来の誤嚥・窒息事故は発生していません。

今後も当院栄養管理室目標の「衛生管理に視点をおき、安全なお食事を提供する」を遂行するため、スタッフ一同、安全で美味しい給食づくりに取り組んでいきたいと思っております。

食材・料理



心理室のご紹介

心理室 公認心理師 山田 絵里

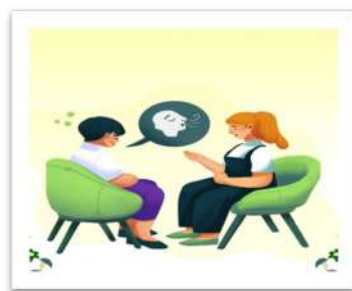
皆さま、こんにちは。

精和病院の心理室は心理師2名のこじんまりとした部署です。

個別ケースに関しては、心理検査やカウンセリングを中心に介入を行っています(カウンセリングはケース数を制限しながら対応しています)。

集団療法を行う際には、多職種(作業療法士、看護師、精神保健福祉士)と連携を図りながら、疾患別の心理教育、テーマを決めてのディスカッション、フリーテーマのざっくばらんな談話会を開催しています。SSTでは、参加するメンバー・スタッフみんなで解決策を話し合い、ロールプレイを通して具体的な対応を図れるように、悩みを相談された患者さんの背中をそっと後押しできるようなグループを目指しています。

今後も引き続きよろしくお願い致します。



精神保健福祉事業功労者表彰

地域連携室 室長 新垣 あゆみ

令和7年11月5日に開催された「第56回精神保健福祉普及大会」において当院から3名の職員が表彰されました。

まず、多年にわたり精神保健福祉事業の発展に大きく貢献し、特に優れた功績が認められた優良精神保健福祉事業関係者として地域連携室看護師金城美佐子さん、精神保健福祉士比嘉寛さんのお二人が表彰されました。また、精神保健福祉事業の推進に寄与した永年勤続者として看護部長兼久正二さんが表彰されました。

式典後は受賞者を囲んで懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中で懐かしいエピソードや、これからの精神科医療の展望についての話題で大いに盛り上がりしました。

今回の受賞を励みに、当院一同さらなる質の高い精神科医療と地域支援の充実に努めてまいります。



院内防災訓練について

総務課 新里 大樹

当院では毎年11月に消防訓練とは別で、地震を想定した院内防災訓練を実施しています。

9時00分に発災し、①LINEにて各セクション長発信による職員の安否確認、②災害対策本部の立ち上げ、③体制の構築まで実施しました。実際赤エリア等に職員を配置し、トリアージを実施します。外来に多数傷病者が避難した場合の対応、他病院への搬送方法、当院一部施設が崩落した際、入院患者の一時避難場所の確保などを想定しました。想定した状況に対して、各セクションからの情報を本部へ集約し本部長が決定する。流れで実施しました。実践さながらの訓練で感動した、などのご意見もいただくことが出来ました。

当日は、休日にも関わらず各セクションから多くのご参加ありがとうございました。

今後も引き続き、取り組んでいけるよう皆様のご協力よろしくお願いいたします。



マイナ保険証利用しませんか！

当施設はマイナ保険証が
スマホでも使えます

スマホでも カードでも



健康証付きカードリーダーの
スマートフォンを利用
を押してスタート!!

※一部施設にスマートフォンでのマイナ保険証利用が対応している場合があります。詳しくは各施設にお問い合わせください。

令和7年12月1日で従来の保険証の有効期限が終了となったことに伴って、当院ではマイナンバーカードでの健康保険証（マイナ保険証）の利用を推奨しています。また、スマートフォンをマイナ保険証として利用できるよう対応済みです。

マイナ保険証を利用することで、限度額認定証の手続きが不要になり、他医療機関で処方されたお薬情報や特定健診の情報を共有できるなどのメリットがあります。